

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年4月12日(2018.4.12)

【公開番号】特開2018-23574(P2018-23574A)

【公開日】平成30年2月15日(2018.2.15)

【年通号数】公開・登録公報2018-006

【出願番号】特願2016-157143(P2016-157143)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月5日(2018.3.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、

音出力チャンネルとして特定チャンネルを用いて、少なくとも第 1 音と第 2 音とを出力可能な音出力手段と、

特別報知を実行可能な特別報知実行手段とを備え、

前記音出力手段は、第 1 状態において前記第 1 音を出力可能である一方、第 2 状態において前記第 1 音を出力せず、

前記特別報知実行手段は、前記第 2 状態において前記音出力手段に前記第 2 音を出力させる態様により前記特別報知を実行する一方、前記第 1 状態において前記音出力手段による前記第 2 音の出力を含まない態様により前記特別報知を実行し、

前記第 2 音として、エラー報知音を出力する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(手段 1) 本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、音出力チャンネル(例えば、AMMデコーダ 714 に設けられている 8 チャンネルの音声再生チャンネル)として特定チャンネル(例えば、チャンネル Ch 0)を用いて、少なくとも第 1 音(例えば、予告音)と第 2 音(例えば、報知音)とを出力可能な音出力手段(例えば、スピーカ 27)と、特別報知(例えば、左打ち報知)を実行可能な特別報知実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100)におけるステップ S 8003 で左打ち報知の実行を決定したときに、ステップ S 8004 で左打ち報知に応じたプロセステーブルを選択してステップ S 8006, S 802 を実行する部分)とを備え、音出力手段は、第 1 状態(例えば、第 1 特別図柄の変動表示)において第 1 音を出力可能である一方、第 2 状態において第 1 音を出力せず(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、ステップ S 6001 で Y のときステップ S 6002 で予告音ありの予告演出 A を決定可能である

一方、ステップ S 6 0 0 1 で N のときステップ S 6 0 0 3 で予告音なしの予告演出 B を決定可能である。図 9 参照。）、特別報知実行手段は、第 2 状態において音出力手段に第 2 音を出力させる態様により特別報知を実行する一方、第 1 状態において音出力手段による第 2 音の出力を含まない態様により特別報知を実行し（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、ステップ S 6 5 0 1 で N のときステップ S 6 5 0 6 で報知音ありの左打ち報知 B を決定する場合がある一方、ステップ S 6 5 0 1 で Y のときステップ S 6 5 0 4 で報知音なしの左打ち報知 A を決定する場合がある。図 9 参照。）、前記第 2 音（例えば、左打ち報知の報知音）として、エラー報知音を出力する（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、ステップ S 6 5 0 6 で左打ち報知 B の実行を決定した場合には、図 9（2-2）に示すように、報知音を出力する態様で左打ち報知 B を実行する）ことを特徴とする。そのような構成によれば、音出力に違和感が生じることを防止し、遊技に対する興味が低下することを防止することができる。さらに、第 2 音としてエラー報知音を出力することにより、不正対策を行うことができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】削除

【補正の内容】